

## 令和7年司法試験 合格体験記

令和7年度在学中受験(既修コース) 矢代 光星

令和6年に既修コースで入学し、在学中受験で令和7年司法試験に合格しました、矢代光星と申します。

私は大学2年生の時から岡山大学法学部の法曹プログラムに所属し、司法試験に向けた学習を開始しました。そして、最終的には、安定した成績で合格を果たすことができました。合格のために私が実践した勉強方法と習慣について、以下に記述します。

まず、学習の方針として得意科目を伸ばすことよりも、苦手科目を潰すことを意識しました。司法試験は科目数が多く、一つの科目での大きな失点が致命傷となります。そのため、模試や演習の成績を冷静に分析し、理解が不足している科目・分野を優先的に補強しました。特に苦手だった民事訴訟法は、授業の復習を他の科目より重点的にしたり、予備校の問題集を繰り返し解いたりして、基礎を固めました。全科目において大崩れしない答案を作成できるレベルを目指したことが、合格に繋がったと考えています。

そして、論文対策においては、既修1年次の夏休み頃から過去問演習に着手しました。在学中受験ということで、法科大学院入学から司法試験まで1年強という限られた時間の中で効率よく学習するため、フル起案の回数は絞り、答案構成を中心とした演習を司法試験直前まで継続しました。数多くの問題に触れることで、出題パターンの把握と論点理解を図るとともに、初見の論点や未知の問題に対面した際でも対応できるよう演習を重ねました。

また、学習を継続するための工夫として、休養の時間を明確に設けました。司法試験は長期戦となるため、心身の健康管理が不可欠です。私は毎週日曜日をオフの日と決め、勉強を行わないことでリフレッシュに努めました。この習慣により、平日の学習の質を高めることができ、最後まで息切れすることなく走り抜くことができました。

最後になりますが、合格に至るまでには法科大学院の教授をはじめ、多くの方々から多大なご支援をいただきました。周囲の環境に恵まれたことに深く感謝しております。岡山大学法科大学院での経験を糧に、今後の実務においても精進していく所存です。